哺　乳　類

概　　説

本県の陸生哺乳類相については「福井の鳥とけものたち」（福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会　1998）にまとめられている．その後の調査により，アズマモグラ，ヒメヒミズが新たに加わり，記載漏れのあったヒナコウモリを追加すると，飼育個体の一時的な籠抜けを除き，本県では，計７目19科48種の陸生哺乳類の分布・生息が記録されている．そのうち，記録が明確でなく，確認の必要な３種（イイズナ，ヤチネズミ，ウサギコウモリ）および，導入種，帰化種などの外来種９種（ドブネズミ，クマネズミ，ハツカネズミ，ヌートリア，アライグマ，ノイヌ，チョウセンイタチ，ハクビシン，ノネコ）を除くと７目15科36種となる．さらに過去50年間（1952～2002年）に記録のない２種（ニホンオオカミ，ニホンカワウソ）を除くと計７目15科34種となる．

現在，外来種を除いて生息が確認されている種の分類群ごとの内訳は，モグラ目６種，コウモリ目７種，サル目１種，ウサギ目１種，ネズミ目９種，ネコ目７種，ウシ目３種となる．これらの多くは，大陸に分布する種の日本産亜種であるが，ヒメヒミズ，ヒミズ，ヤマネは日本固有属，アズマモグラ，ニホンザル，ニホンリス，ホンドモモンガ，スミスネズミ，ハタネズミ，アカネズミ，ヒメネズミ，ニホンイタチ，ニホンカモシカは日本固有種である．

白山山系で生息が確認されているオコジョは，本県が日本の西限となっている種である．また，ニホンカモシカも，本州の連続した分布の中では，本県がほぼ西限となっている．その他，カグヤコウモリ，ヤマコウモリ，コテングコウモリ等も本州の連続した分布の中で隣県の石川県が西限であり，本県でも記録される可能性はある．逆に，ホンシュウジカでは，隣県の石川県では生息記録はあるものの繁殖の確認はなく，チョウセンイタチは，九州から分布を広げてきた結果，本県がほぼ日本海側の現在の東限となっている．コウベモグラ，イノシシも日本海側では，石川県が東限となっている．

本県の哺乳類相において，嶺北地方と嶺南地方とで，分布・生息する哺乳類で顕著に異なる種が見られる．すなわち，嶺南地方で多いニホンザル，ホンシュウジカ，イノシシは嶺北地方では少ない．しかし，1995年頃より大野市や和泉村では，ニホンザルやイノシシの群れがよく観察されるようになってきている．

本県の奥越地方から石川県と岐阜県にまたがる白山山系の山岳地帯に生息する小型哺乳類（コウモリ類やモグラ類，ネズミ類）の調査が不十分である．福井県では未確認であるが，石川県または岐阜県で生息が確認されている種として，コウモリ目（ヒメホオヒゲコウモリ，カグヤコウモリ，ヤマコウモリ，コテングコウモリ），モグラ目（ミズラモグラ，トガリネズミ，アズミトガリネズミ），ネズミ目（ヤチネズミ）があげられ，今後の調査が待たれる．

選定種の基準

絶滅のおそれのある哺乳類について，種の選定およびランク付けを行う場合，各種の生息現状の客観的評価を行なうために，過去から現在までの個体数と分布域を継続的にとらえていく必要がある．しかし，本県の哺乳類においては，個体数はもとより，分布域における情報さえ不足している．このような現状の中，今回の選定においては，以下の基準で選定した．すなわち，環境省のレッドリスト「哺乳類」のうち，福井県で生息しているか，または，生息していたことが確認されている種として，ニホンオオカミ，ニホンカワウソ，ヒナコウモリ，ヤマネ，オコジョ，テングコウモリを，環境省レッドリストの指定からは外れるが，本県において，特に稀少だと判断される種として，カワネズミ，モモジロコウモリ，ユビナガコウモリ，ホンドモモンガを選定した．このうち，カワネズミおよびモモジロコウモリは，情報が不足しているうえ，生息環境の改変によっては，絶滅に至るおそれが予想されると判断されるため，警鐘を鳴らす意味で選定した．このほかにも，アズマモグラ，ヒメヒミズが，情報不足として判断困難な種としてあげられるが，両種ともに隣接する石川県の白山山系の個体群と連続しており，石川県では今のところ絶滅のおそれがないと判断されていることや，本県でも生息域の大きな改変が考えられないことを考慮し今回は，選定外とした．

また，アズミトガリネズミ，ミズラモグラ，ヒメホオヒゲコウモリ，カグヤコウモリ，ヤマコウモリ，ウサギコウモリ，コテングコウモリは，本県での確実な生息情報はないが，石川県あるいは岐阜県では確認されており，連続した生息分布の中で，本県でも今後調査を行うことにより，生息が確認される可能性は十分にあり，この場合，選定種としてリストアップされることになる．

以上の選定基準を鑑み，今回の選定種は，暫定的なものであり，今後において見直しが不可欠であることを強調しておきたい．

（上木　泰男）

ニホンオオカミ

ネコ目イヌ科
Canis lupus hodophilax Temminck

福井県カテゴリー　県域絶滅
環境省カテゴリー　絶滅

●種の特性
大陸に生存しているオオカミと同様にシカやノウサギ，ノネズミ類を集団で捕食していた．
草食獣の個体数制限に大きな影響を及ぼしていた．

●生息状況
ユーラシア中・北部，北アメリカに広く分布するタイリクオオカミの亜種．
明治中頃までは，日本でも本州，四国，九州に広く分布していたが，1905年に奈良県鷲家口での捕獲を最後に絶滅し，現在，本県を含め，生存の確認はない．

●絶滅に至った原因
家畜を襲うなどにより有害獣として捕殺駆除されたことや，ジステンバーなどの感染症が絶滅の要因とされている．

●参考文献
福井県．1998．福井の鳥とけものたち．222pp．福井県．
福井県．1999．福井のすぐれた自然　動物編．452pp．福井県．
日高敏隆(監)．1996．日本動物大百科２哺乳類Ⅱ.155pp．平凡社，東京．

ニホンカワウソ

ネコ目イタチ科
Lutra nippon Imaizumi & Yoshiyuki

福井県カテゴリー　県域絶滅
環境省カテゴリー　絶滅危惧ⅠA類

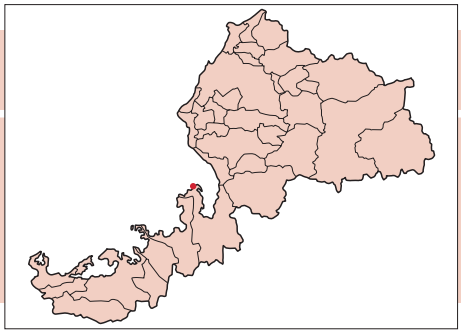
●種の特性
河川の中下流部から沿岸部に生息し，水中で魚類，甲殻類を，陸上でネズミ類，鳥類を捕食する．
川岸に巣穴を堀り家族単位で生活する．

●生息状況
イギリス，ヨーロッパから東南アジア，中国，極東まで，シベリアを除くユーラシアの河川沿いに広く分布する．かつて，日本でも北海道から九州まで，対馬などの離島を含めた河川の下流部に広く生息していた．
本県では，絶滅したと考えられ，現在，生存の確認はない．唯一の生息場所は高知県南西部に限定され，絶滅が危惧されている．

●絶滅に至った原因
良質な毛皮を目的とした乱獲とともに，全国的な河川改修による生息地の消失と河川環境の悪化による餌となる魚の減少などが挙げられる．

●参考文献
福井県．1998．福井の鳥とけものたち．222pp．福井県．
日高敏隆(監)．1996．日本動物大百科１哺乳類Ⅰ.156pp．平凡社，東京．

ヒナコウモリ



コウモリ目ヒナコウモリ科
Vespertilio superans Thomas

福井県カテゴリー　県域絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー　絶滅危惧Ⅱ類

●種の特性

本来は樹洞をねぐらにすると考えられているが，現在では，神社などの家屋や人工建造物などの利用が多く知られている．
初夏になると雌親ばかりの出産哺育集団を形成し，２子を出産する．
餌となる昆虫類が減少する冬期には冬眠するが，冬眠群が少数しか見つかっていないため詳細は不明である．

●生息状況

北海道，本州，四国，九州で生息が確認されているが，繁殖集団は数ヵ所しか見つかっていない．
本県では，敦賀市の通称「こうもり岩」と呼ばれる岩の隙間で数百頭からなる繁殖集団が見つかっているが，それ以外からの確認記録はなく，冬眠群も見つかっていない．

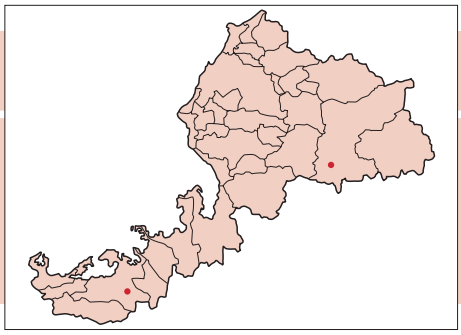
●存続を脅かす要因

伐採等による森林の消失により，本来のねぐらである樹洞が減少し，また採餌空間も減少している．
本県では，「こうもり岩」と呼ばれる岩の隙間を繁殖場所として利用しているため，「こうもり岩」周辺の生息環境の改変が挙げられる．

●参考文献

阿部永(監)．1994．日本の哺乳類．195pp．東海大学出版会，東京．
日高敏隆(監)．1996．日本動物大百科１哺乳類Ⅰ．156pp．平凡社，東京．
福井県．1999．福井県のすぐれた自然　動物編．452pp．福井県．

テングコウモリ



コウモリ目ヒナコウモリ科
Murina leucogaster Milne-Edwards

福井県カテゴリー　県域絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー　絶滅危惧Ⅱ類

●種の特性

本来は樹洞をねぐらにすると考えられているが，現在では，洞穴の利用が多く知られている．
確実な繁殖集団が見つかっていないので詳細は不明だが，出産は初夏に行われると考えられている．
餌となる昆虫類の飛翔が減少する冬季には冬眠する．

●生息状況

北海道，本州，四国，九州で生息が確認されており，本県の周辺の県でも生息が確認されている．
本県では小浜市の石灰洞と大野市の平家平で生息が確認されている．しかし，確認数は１頭ずつであり，繁殖個体群や冬眠個体群は確認されていない．

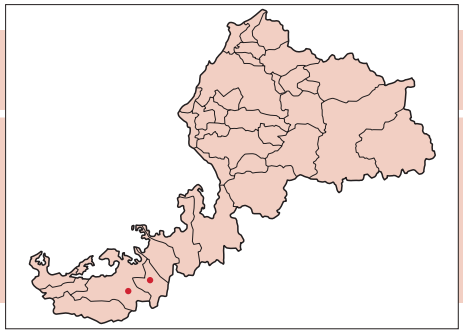
●存続を脅かす要因

伐採等による森林の消失が原因で本来のねぐらである樹洞が減少し，また採餌空間も減少している．
洞穴内にごみを捨てるなど，生息洞の環境が悪化している．また，懸下しているコウモリに人間が触れるなどの行為でも，生息を脅かす要因となる．

●参考文献

阿部永(監)．1994．日本の哺乳類．195pp．東海大学出版会，東京．
福井県．1999．福井県のすぐれた自然　動物編．452pp．福井県．
日高敏隆(監)．1996.日本動物大百科１哺乳類Ⅰ．156pp．平凡社，東京．

ユビナガコウモリ



コウモリ目ヒナコウモリ科
Miniopterus fuliginosus (Hodgson)

福井県カテゴリー　県域準絶滅危惧
環境省カテゴリー　――

●種の特性

洞穴をねぐらとしているコウモリで，数百から数万の大群を形成する．本種は他のヒナコウモリ科のコウモリと比較して，長距離の飛翔が可能である．
初夏になると雌親ばかりの出産哺育集団を形成し，１子を出産する．幼獣は生後30～40日ぐらいで飛翔できるようになる．
餌となる昆虫類の飛翔が減少する冬季には冬眠する．

●生息状況

本州，四国，九州および幾つかの島部で生息が知られており，本県の周辺の県でも生息が確認されている．
本県では，上中町の農業用水路と小浜市の石灰洞で生息が確認されており，上中町には数千頭が冬眠のために集まってくる．三重県北勢町のマンガン廃抗で標識された個体が，直線距離で約70km離れた上中町で確認されている．

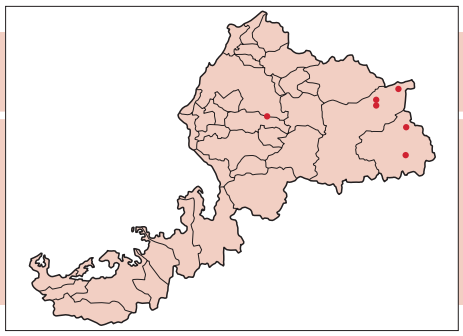
●存続を脅かす要因

洞穴内にごみを捨てるなど，生息洞の環境が悪化している．また，懸下しているコウモリに人間が触れるなどの行為でも，生息を脅かす要因となる．
採餌空間としての森林が伐採などにより減少している．

●参考文献

阿部永(監)．1994．日本の哺乳類．195pp．東海大学出版会，東京．
福井県．1998．福井の鳥とけものたち．222pp．福井県．
日高敏隆(監)．1996．日本動物大百科１哺乳類Ⅰ.156pp．平凡社，東京．

ホンドモモンガ



ネズミ目リス科
Pteromys momonga Temminck

福井県カテゴリー　県域準絶滅危惧
環境省カテゴリー　――

●種の特性

低山から亜高山の森林に生息する．
夜行性で主に樹上で活動し，被膜を用いて木々間を滑空する．
樹洞を巣にするほか，テングス病の針葉樹の枝の中や樹上に小枝を集めて巣を作る．
植物食性で，樹木の芽，葉，花，樹皮，種子，果実のほか，キノコも採食する．

●生息状況

日本固有種で，本州，四国，九州に分布している．
本県では数例の記録しかなく，大野市上打波嵐谷，和泉村，　江市上戸口町での生息が確認されている．標高800～1000mのブナ林での記録が多いが，標高140mの大木のスギの植林地での生息も確認されている．

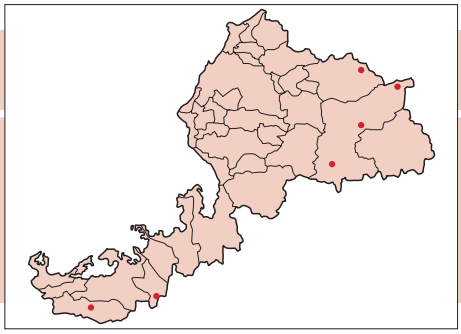
●存続を脅かす要因

自然林の伐採による生息環境の分断，縮小が挙げられる．

●参考文献

福井県．1998．福井の鳥とけものたち．222pp．福井県．
福井県．1999．福井のすぐれた自然　動物編．452pp．福井県．
日高敏隆(監)．1996．日本動物大百科１哺乳類Ⅰ.156pp．平凡社，東京．
松村俊幸．1995．福井県におけるホンシュウモモンガの生息状況．Ciconia4:65-69
大迫義人．1996．福井県　江市で記録されたホンドモモンガの幼獣．Ciconia5:103-106

ヤ　マ　ネ



ネズミ目ヤマネ科
Glirulus japonicus (Schinz)

福井県カテゴリー　県域準絶滅危惧
環境省カテゴリー　準絶滅危惧

●種の特性

低山帯から亜高山帯の成熟した森林に生息する．果実や種子を採食し，昆虫などもよく捕食する．
夜行性で主に樹上で活動し，日中は樹洞や鳥の巣箱の中などで休息する．
気温が低下して昆虫などの餌が少なくなる10～11月頃から冬眠を開始し，環境温度に合わせて０℃近くまで体温を低下させる．
春から秋にかけて１～２回出産する．産子数はふつう３～６子．

●生息状況

日本固有種で１属１種．本州，四国，九州のほか，隠岐島後に分布しているが，分布は断続的であり，和歌山県，長野県，富士山麓などの特定の地域に多く分布する．
本県では，奥越地域の勝山市，大野市と丹南地域の今庄町，嶺南地方の上中町，名田庄村での生息が確認されているが，記録が少ない．

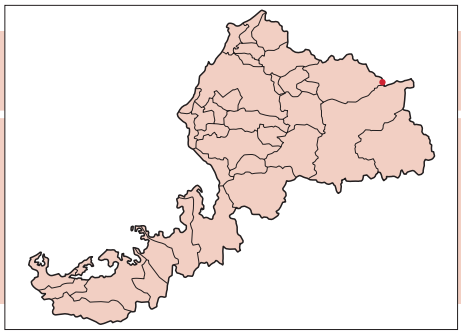
●存続を脅かす要因

樹洞などのひそみ場所が数多くあり，餌となる昆虫が多数生息する成熟した広葉樹の森林の減少や，生息域の分断・縮小による個体群維持への影響が大きい．特に天然林の伐採は脅威となる．

●参考文献

福井県．1998．福井の鳥とけものたち．222pp．福井県．
福井県．1999．福井のすぐれた自然　動物編．452pp．福井県．
日高敏隆(監)．1996．日本動物大百科１哺乳類Ⅰ．156pp．平凡社，東京．

ホンドオコジョ



イタチ目イタチ科
Mustera erminea nippon Cabrera

福井県カテゴリー　県域準絶滅危惧
環境省カテゴリー　準絶滅危惧

●種の特性

山地帯上部から高山帯に生息する．夏は亜高山帯の岩場で活動するほか，低木の多い森林内でも見られる．
鳥類やその卵雛，ネズミ類，昆虫などの小動物を捕食する．
出産期は春で，樹洞や石のすき間などにつくった巣で子を産む．

●生息状況

ユーラシア北部と北アメリカに広く分布するオコジョの日本産亜種である．本州の中部以北に分布し，北海道には別亜種のエゾオコジョが分布する．
本県では，奥越地域の勝山市北谷町でその生息が確認されているだけであり，記録はほとんどない．

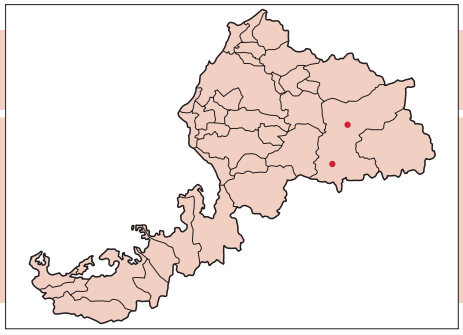
●存続を脅かす要因

主な生息地である亜高山帯の環境改変が挙げられる．

●参考文献

阿部永(監)．1994．日本の哺乳類．195pp．東海大学出版会，東京．
福井県．1998．福井の鳥とけものたち．222pp．福井県．
福井県．1999．福井のすぐれた自然　動物編．452pp．福井県．

カワネズミ



モグラ目トガリネズミ科
Chimarrogale platycephala (Temminck)

福井県カテゴリー　要注目
環境省カテゴリー　――

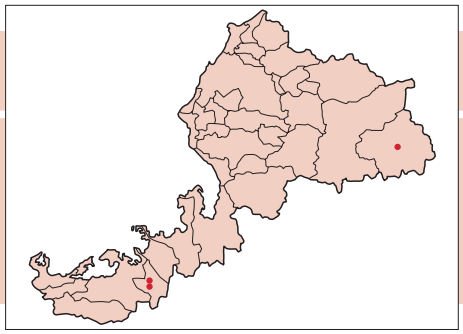
●種の特性
山間の渓流付近に生息し，夜間に活発に活動するが，日中にも見られる．
主に河川を泳ぎながら，水中や水辺で小動物（小魚，水生昆虫，カエル，カワニナなど）を捕食する．
湖畔の土中や石の下に巣を作り，春と秋に２～３頭の子を産む．

●生息状況
本州・四国・九州の低地から高山の山間部の渓流に生息する．しかし，四国では，ここ60年以上，生息の確認はない．同一種が，東南アジアに分布している．
本県では，情報が少なく，和泉村田茂谷，大野市上打波，大野市真名川上流域で生息が確認されている．

●存続を脅かす要因
生息場所となる山間部渓流における河川改修，砂防ダムの建設，河畔林伐採などの渓流環境の改変が挙げられる．

●参考文献
阿部永(監)．1994．日本の哺乳類．195pp．東海大学出版会，東京．
福井県．1998．福井の鳥とけものたち．222pp．福井県
日高敏隆(監)．1996．日本動物大百科１哺乳類Ⅰ．156pp．平凡社，東京．
三原学･大迫義人．1999．1998年福井県大野市で捕獲されたカワネズミ． Ciconia 8:35-37

モモジロコウモリ



コウモリ目ヒナコウモリ科
Myotis macrodactylus (Temminck)

福井県カテゴリー　要注目
環境省カテゴリー　――

●種の特性
洞穴をねぐらとしているコウモリで，数百から数千の群を形成する．また，コキクガシラコウモリやユビナガコウモリの群に紛れ込んで混群を作ることも知られている．
初夏に１子を出産し，幼獣は生後30日ぐらいで飛翔できるようになる．
餌となる昆虫類の飛翔が減少する冬季には冬眠する．

●生息状況
北海道，本州，四国，九州および幾つかの島部で生息が知られており，本県の周辺の県でも生息が確認されている．
本県では上中町の農業用水路と和泉村の白馬洞で生息が確認されているが，いずれも少数で，数百もの群は見つかっていない．

●存続を脅かす要因
洞穴内にごみを捨てるなど，生息洞の環境が悪化している．また，懸下しているコウモリに人間が触れるなどの行為でも，生息を脅かす要因となる．
採餌空間としての森林が伐採などにより減少している．

●参考文献
阿部永(監)．1994．日本の哺乳類．195pp．東海大学出版会，東京．
福井県．1998．福井県の鳥とけものたち．222pp．福井県．
日高敏隆(監)．1996．日本動物大百科１哺乳類Ⅰ．156pp．平凡社，東京．